

東北支援旅行レポート

2012年10月23日
水嶋申夫

東北震災は「想定範囲外」という流行語を生みました。世の中は「予期せぬ出来事」に満ちています。21世紀は2001年9月11日に象徴されるような世界が震撼させられる出来事が相次ぎ起っています。9.11は米国と欧州をテロに怯える国家に変え、3.11は先進国に原子力発電の脅威を植付けました。19、20世紀の大国は21世紀に入り苦悩する諸国家となり、歴史は大きく変わろうとしていると思います。

3.11東北大震災は数百年振り、否1000年振りと言われる大津波が災害を途方もなく大きなものにしてしまいました。真っ黒な波が陸上を遡っていくテレビ映像を見た時、正に9.11の国際貿易センタービルの崩れ行く様を見た時と同じ「これは何だ！！」という強烈な思いを今も鮮明に記憶しています。

津波のテレビ映像を見た時はまだ中国に勤務していました。退職後、寄付支援だけでなく何か具体的に支援できることは無いかと思案してきましたが、娘たちのように毎週土曜日に出かけ肉体労働で支援するには少し年取り過ぎた感もあり、なかなか踏み出せませんでした。しかし、この6月には意を決して塩釜・石巻に一人出かけ被災地を歩いてきました。常日頃テレビで見ているのと違った実に重い風景であり、復旧復興はとても遠い道のりに思えました。また、石巻の海岸線から内陸を覗いて高台なるものは全く無く、テレビでよく言われている高台への避難は実際にはとても難しいと分かりました。今後の復興においても「高台への移転」は大掛かりな国家プロジェクトで山を崩さない限り実現不可能な戯言と思えました。

そして今回は大学の計らいで支援旅行に参画できました。岩手の宮古を初めて訪れました。時間的な制約もあって海岸線をじっくり見ることは無かったのですが、それに代わって岩手の校友から被災時の詳細な出来事や復興状況を聞くことができ大変感銘を受けました。

やはり一人ではどうすることもできません。やはり組織で活動することが現実的で効果も大きい。近年NGO/NPO等の組織もあり、それに参画することも一つの選択肢ですが、大学組織が恒常的にこの様な計画を実施して貰えれば、私としては大変参加しやすく且つ意義ある支援ができると思います。もちろん、支援旅行だけでなく、何か新しいプロジェクトで人員を必要とすれば是非誘って戴きたいのです。我々団塊の世代はいよいよ退任し世間のお荷物になろうとしています。そこでこの世代を大いに利用活用することはとても重要だと思います。つまり再就職ではなく再利用です。大学サイドでこの辺のところを深く考えていただき、大学校友会の活性化と引いては大学の活性化に繋げて戴きたいものです。例えば、東北地方の新規”起業”情報を取り込み、その起業家との面談会などを催し金銭も含め支援するチームを立ち上げるとか、もちろん、東北のご学友が新たに起業するとか、既に起業した会社に投資や支援をするのが理想ではありません。いづれにしても、更に、知力財力を注ぎ込めるようなプロジェクトを是非企画立案して戴きたいものです。

※東北での懇親会の折、現地の学友から、今でもボランティアで訪れる団体のなかで立命館大学の名前を最もよく聞きます、とのこと。嬉しいことです。大いに誇りたいものです。これからの活躍も大いに期待しています！！！！